

## 【高齢者の現状4】

東海社会福祉科学研究所

大北秀雄

### (3) 安定した生活

① 高齢者にとっての安定した生活とは何かを考えてみると、不安定要素が多くあり、それが何かと限定することは難しいものでしょう。

- ・60歳からの人生に何を求めて生きていくのか
- ・計画を描いても実現できる可能性が大きいのか
- ・一人一人の生き方に満足できるのか
- ・地域の環境に馴染むことができるのか
- ・家庭生活に満足できるのか
- ・政治に対して希望が持てるのか
- ・健康に対する一定の限界を持てるのか
- ・趣味に対する行動が保障できるのか
- ・何事もがまんすることと、それをがまんと思わないといえる気持ちを維持することができるのか

などのことを考えると、長いようで短い人生をどう生きていくのかがはっきりしなくなります。

② 多くの書物、意見を見たり、聞いたりすると、感謝とありがたいの気持ちが大変で、今日を大切に、明日来ること感謝することを理解することを薦める内容が多いです。

③ 割りきりがとても必要な時代です、ある程度のところでがまんし、喜びを再認識することも必要ですし、まあまあの生き方ができれば合格点であるように思わなければ暗くなるばかりだと思います。

④ 金と時間に余裕のある人間は、本当にごくごく一部なのに、それができなければ損をしたと思ってみたり、いつかそれに近い状況が現れるとの錯覚に酔っているような人が多いようです。

今の社会は、中の生活を当たり前のように誰でもが送れるように情報提供されていますが、何が中なのかも判らないし、地域によっても大きく変わるし、家庭環境によっても大きく動きますし、時代の流れにも大きく作用されているのも現実です。

個人の生きる力によって生活するしかないのが現実ですが、足を引っ張る要因が目の前、足元にありますので、それを理解し行動することが大切ですが、その強敵に勝つことはなかなか難しい課題です。その課題に対して逃げるのが一番損な人生になってしまいます。